PECS　ATケース　取り扱い説明書

★フィルターケースの取り扱い

●フィルターケース脱着時は、カジリ防止材を毎回ネジ部に使用してお使い下さい。

●締め付けはアルミの部材通しが、カチッと当たるところで止めてください。
必要以上に締め付けるとネジ部が変形し故障の原因となりますので、オーバートルク厳禁です。

●万が一、漏れが生じた場合には増し締めせずに、クッションラバー当たり面を状態を確認ください。

●フィルターヘッドの上部ネジはPF1/8並行ネジです。　純正ヘッドのメクラボルトをを使用し、
蓋をしてください。

●フィルターヘッド側面のネジはPT1/8ネジです。

★フィルターメンテナンス時の注意事項

●清掃のタイミングは、ドレンボルトの摩耗粉の状況によりタイミングが変わりますので、
ご自身の車両の状況に合わせてお願いします。別紙参照

●メンテナンス時、5段コア本体を分解しないで清掃をしてください。コア本体を分解しますと、
再度組み込み時の磁石の配列により効果を失うことがあります。また磁石の反発により割れますと、
個別の部品の供給が不可能となりますので、ご注意願います。

●メンテナンス時のクッションラバーは毎時の交換が必要です。

★取り付け方法

●取り付け順

クッションラバー大☞5段コア☞クッションラバー小☞固定アタッチメント☞スプリング☞ケース

★メンテナンス時、両パッキンの
交換をお願いします。

オイル交換の際にドレンボルトに付着する鉄粉量によるP清掃の目安
5段コアPECS（CA-8001）の場合

オートマミッションの下からオイルを抜く際に
写真のように茶漉しのようなもので受けると
出てくる異物に気づくことがあります。

正常なオートマはドレンボルトに付着する摩耗粉は　このくらい。
尖った金属はなく、増えたとしてもマッチ棒のような形状になります

PECS の清掃点検は 2～3 万kmを目安に。
PECS の磁石に付着した量で次の清掃距離は判断してください。

やや多めですが、正常の範疇かと思われます。

PECS の清掃点検は 10000 kmを目安に。
PECS の磁石に付着した量で次の清掃距離は判断してください。

かなり摩耗粉は多く、オートマ内部の異常摩耗が疑われます。
尖った金属が付いてないか注意してみてください。

PECS の清掃点検は 3000 km以内を目安に。
PECS の磁石に付着した量で次の清掃距離は判断してください。

ドレンボルトをしばらく放置して、針ねずみのような形状になる場合
は、オートマ内部（ドラムとバンド）に異常摩耗が考えられます。
専門店でご相談下さい

この場合でも PECS の効果は体感できますが、早めの修理をお勧めします。
清掃点検は 1000 km以内を目安に、頻繁に清掃してください。

＊オートマが滑ってる、タイムラグが大きい、変速時のショックが大きい又は抜ける・・ような症状がある場合は早めの修理をお奨めします。MINI はエンジンとオートマが一体なのでトラブルの原因がエンジン側にある場合があります。

MINI 専用オートマ用 PECS 販売元
クラシックミニ専門店　㈱キャメルオート
〒192-0016　東京都八王子市谷野町1186-3　　℡0120-810-002　hachioji@camel-auto.co.jp